

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
音楽 I	2	1 年全類	選択必須

授業担当者	教科書名	副教材等
*****	MOUSA 1 (教育芸術社)	教科書付属 CD・DVD、

科目の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を培うとともに、感情を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

評価の観点と方法について

- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点から評価する。
- ・授業への取り組みの姿勢や、決められたルールを守っているか。
- ・音楽に対して楽しみをもって授業を受けられているか。
- ・奏法等、柔軟に対処し、応用できる能力を持っているか。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	〈知識〉 ・楽典、リズム	・楽譜を読むために必要な記号・音価等を理解する。	・拍子を理解し、楽譜を見ながらリズムを叩き、音符、音価を理解する。	・しっかりと授業に取り組み、理解しているか。
	5	〈表現〉 ・歌唱「天理教成年会歌」 「花」「夏の思い出」	・校歌の歌詞を理解し、歌えるようにする。 ・情景を思い浮かべながら歌う。	・歌詞を注視し、その意味や背景を学ぶ。 ・季節の歌を通して情景を感じ、それを表現するために、正しい歌唱の姿勢、呼吸などを学ぶ。	・歌詞を理解し積極的な姿勢で歌っているか。
	6	・リズムアンサンブル「プリマス・ロック」	・叩く場所や強さによって音色や音量が変化することに気付かせる。	・季節の歌を通して情景を感じ、それを表現するために、正しい歌唱の姿勢、呼吸などを学ぶ。 ・楽譜を追いながら伴奏に合わせてそろって歌い、みんなで歌い上げる楽しさを感じる。 ・メンバーで話し合い案を出して、リズムづくりをし、強弱や構成を工夫し、	・創作、演奏を楽しむ、積極的に取り組んでいるか。

		学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
		〈鑑賞〉 ・「天使にラブソングを」	・うたの素晴らしさと影響力に気づき、実技に活かす。	アンサンブルを作り上げる。	・関心をもって鑑賞できているか。
二 学 期	9	〈表現〉 ・カリンバ	・世界の楽器に触れ、音色を親しむ。	・一人1台楽器を与え、音色を楽しむと同時に、楽譜を見て音名を読み、課題曲「歓喜の歌」の練習を重ねる。	・音名を読むことが出来るか。 ・器楽演奏を楽しみ、積極的に取り組んでいるか。
	10	・グループアンサンブル（ハンドベル）	・アンサンブルの楽しさを味わう。 ・他のグループの演奏を聴きあう。	・グループで曲、演奏形態などを話し合い、成果発表会に向けて練習させる。	・グループで助け合いながら目標に向かっていているか。 ・本番を見据えて計画的に練習出来ているか。
	11	〈実技テスト〉 ・グループアンサンブル	・グループで練習してきた成果を人前で発表する。	・他のグループの前で発表、披露させる。	・練習の成果を十分に発揮できたか。 ・他のグループも尊重し、慎みを持って関わっているか。
	12	〈鑑賞〉 ・「のだめカンタービレ」 ・「動物の謝肉祭」	・クラシックに対して親しみを持ち、その良さに気づき音楽を味わう。 ・サン＝サーンス「動物の謝肉祭」を鑑賞し、クラシ	・作品の中で登場するクラシックに注目し、どのような音楽だったか、また何を感じたか、感想シートに記入させる。 ・グループによる音楽鑑賞をし、交流を深めるとと	・興味を持って鑑賞出来たか。 ・積極性、協調性を持って活動してい

		学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
			ックに親しむ。	もに音楽を形作る要素と 感受したことを言葉に表 す。	るか。
三 学 期	1	〈表現〉 ・歌唱 おうた1番「やまさ かや」	・卒業式に向けて、歌詞を 理解し歌うことが出来る。	・歌詞の意味を説明し、楽 譜に書かれている強弱や 息使いに気を付けて歌う。 ・おうたの誕生の経緯、背 景を理解する。	・暗唱を目標とし て積極的に取り組 んでいるか。
	2	〈鑑賞〉 ・日本民謡	・日本の民謡に親しみそ の良さを感じ楽しむ。	・日本各地の民謡を取り 上げ、文化と民謡音楽の特 徴を捉える。	・興味関心を持っ て、意欲的に取り 組んでいるか。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
音楽Ⅱ	2	2年1類A型、3類	選択必須

授業担当者	教科書名	副教材等
*****	MOUSA 2 (教育芸術社)	教科書付属 CD・DVD

科目の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を培うとともに、感情を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

評価の観点と方法について

- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点から評価する。
- ・授業への取り組みの姿勢や、決められたルールを守っているか。
- ・音楽に対して楽しみをもって授業を受けられているか。
- ・演奏方法や各自の苦手等に柔軟に対処し、応用できる能力を持っているか。

		学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	〈表現〉 ・楽典	・一年次で習ったことの復習と補足説明をして理解を深めていく。	・復習に加え、楽譜に出てくる記号について新たに取り組む。	・楽譜が読めるようになる。
	5	〈合唱〉 〈鑑賞〉 ・「表参道高校合唱部」	・歌詞、楽譜を解説し工夫して歌う。 ・うたの楽しさを感じ取る。	・混声合唱曲を選曲し、担当のパートを歌いながら、他パートとの関わり合い、ハーモニーを感じる。 ・実際に合唱に取り組み、歌う楽しさや感動を体感する。 ・合唱、音楽が与える感動、力に気付く。	・歌詞、楽譜を理解し歌うための工夫を凝らしているか ・うたの素晴らしさを感じて鑑賞できるか。
	6	〈実技テスト〉 ・うた			

		学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	〈表現〉 ・グループアンサンブル（キーボード）	・器楽アンサンブルを楽しむ。 ・器楽アンサンブルを行い、合奏の楽しさを体感する。	・グループで演奏形態、音色などを話し合い、成果発表会に向けて協力し工夫を思考させる。 ・自分のパートを演奏しながら他のパートを聴き、アンサンブルを感じる。	・積極性、協調性を持ち、グループで助け合いながら目標に向かっているか。
	10				
	11	〈実技テスト〉 （・キーボード）	・グループで練習してきた成果を発表する。		・練習の成果を発揮出来たか。
	12	〈鑑賞〉 ・西洋音楽史	・西洋音楽史を学び、クラシック音楽を楽しむ。 ・クラシックの歴史を辿る。	・古典から近現代までの代表的な人物と楽曲を知る。 ・有名な作曲家とその代表作を題材とし、西洋音楽史の流れを知る。 ・聴きなじみのある曲を用いて親しみを持ち、曲や作曲家について学びを深める。 ・思ったこと、感じたことを自分の言葉で表現する。また、知覚したことと感受したことを整理する。	・積極的に鑑賞しているか。 ・人物と楽曲をおさえ、時代による音楽の違い、特徴を理解する。
三 学 期		〈表現〉 ・おうた「やまさかや」 ・篠笛	・おうたを知り、卒業式の式典で歌えるようにする。	・CD や DVD を使用し、おうたの存在意味や価値を理解する。	・音楽・歌詞を理解しようとし、積極的に歌おうとしているか。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
美術 I	2	第 1 学年全類	選択必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		光村図書 美術1	「美術全集」

科目の到達目標 絵画・彫刻・デザインの実技を通して、表現の意図を考え創意工夫し、主体的に創造活動に取り組む。 また 鑑賞を通して美術文化に親しみ、豊かな創造力を養う。
--

評価の観点と方法について 制作過程の様子や完成作品による実技点と平常点(授業態度等)を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の 3 つの観点をもとに、テーマの設定力や技法の開発工夫などが主体的に取り組まれているかという事に留意し、学期毎に ABC の 3 段階で査定する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	刈エーション	現代美術の動向を知り、高校美術の内容を理解する。	教科書、図録、模写資料の鑑賞	美術に関心を持ち、学習意欲を持つ。
	5	絵画(人物クロッキー・自画像デッサン)	人物を観察し、技法を工夫して、物の見方を学ぶ。	クロッキーは設定時間を変えて描く。デッサンはグレーの紙に白と黒のコンテで描く。	観察力、集中力、明暗調子の理解。
		絵画 (透視図)	遠近法の理論を実技で身につける。	俯瞰図で設問したものを正面からの一点透視図に描き直す。	遠近法の理解。
	6	鑑賞 (世界の風景画)	風景画実技の導入	教科書、美術全集で幅広く風景画を鑑賞。	優れた表現に関心を持つ。
	7	絵画 (風景水彩画)	自然観察の喜びを通して表現力を向上させる。	校内風景を水彩で描く。着彩、淡彩の技法研究。	感動を持つ。 遠近法を理解し、自然な表現ができる。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	9	彫刻（カービング） {講座によりデザイン課題とする}	素材の中に像をイメージする	「落花生」をテーマとし、石膏をノミで刻み、ヤスリで削って造形する	明快なイメージ 誠実な手仕事 積極性
	10	鑑賞（日本美術史・東洋美術史・西洋美術史）	美術史を体系的に学習し、東西の交流を知る。	教科書・美術全集の鑑賞。	歴史、地域のつながりを理解し、美に感動する心を持つ。
	11	絵画(模写)	巨匠の造形思想と技法を学び、深く美術と親しむ。	教科書、画集から興味を持てる作品一点を選び、描き込む。 実材模写資料の鑑賞。	造形上の発見。 完成度。
	12				
三 学 期	1	デザイン（基礎理論）	色彩構成理論を学ぶ	参考作品、教科書の参考図を鑑賞し、講義から理論を学ぶ	色の三属性と対比の理解。 形の大小、連続効果等の理解。
	2	デザイン（平面構成）	形体理論、色彩理論を実技で身に付ける	描写構成か、イメージ構成を選び、ポスターカラーで描く。 (テーマ設定は講座による)	理論を生かして平面構成する。
	3				

その他（履修上の留意点・大学進学のための学習など）

作品課題は全力で取り組み、参考作品や資料・道具などは大切に扱う。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
美術Ⅱ	2	第2学年1類A型・3類	選択
授業担当者 *****		教科書名 日本文教出版 高校生の美術2	副教材等 「美術全集」

科目の到達目標
美術1をもとに、より深く幅広い内容とする。
創造的な工夫を意識した課題を通して表現力を高める。そして現代美術の鑑賞・実技へと移行し、自己の価値観を高め美術文化についての理解を深める事で個性豊かな美術の能力を高める。

評価の観点と方法について
制作過程の様子や完成作品による実技点と、平常点（授業態度等）を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点をもとに、テーマの設定力や技法の開発工夫などが個性豊かで主体的に取り組まれているかという事に留意し、学期毎にABCの3段階で査定する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	オリエンテーション	高校美術Ⅱの内容を理解する	教科書、美術全集などの資料鑑賞	学習内容に関心を持つ
	5	鑑賞（西洋彫刻史）	カノン等美の法則を学び、石膏デッサンの導入とする。	古代ギリシアから近代までの石膏像と現代作品の画集で鑑賞する。	目で見て、表現の違いに気付く。
		絵画（石膏像デッサン）	物の見方を学び客観的表現を充実させる。	石膏像を鉛筆で描く。 講評で要点を確認徹底する。	構図の安定 形の正確さ 明暗調子の理解 観察力
	6	絵画（石膏像ハイコントラストデッサン）	見たものを明快に表現する	前課題と同一石膏像を墨で素描する	明快なイメージ 強い表現力
	7	デザイン（マーブリング表現）	使えるものをつくる	紙をマーブリングで染め、テーマにそって工作し、ラミネート加工する。	実用性と美しさ

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	デザイン(立体構成)	イメージを立体で表現する。	各自テーマを決め、針金で自由に構成する。	多面的に形体を追求できる。
		鑑賞(現代美術)	表現領域の広さを学ぶ。 (イメージ画の導入)	教科書、美術全集で主要な現代作品を鑑賞	現代美術の幅広い表現に関心を持つ。
	10	絵画(イメージ画)	表現の幅を持たせる。 心の表現を試みる。	課題テーマ、自由テーマをフロッタージュ・デカルコマニー等の技法を駆使して表現	技法の開発 意図に応じた表現方法を使う。
	11	彫刻(塑像から彫刻へ細密表現)	一つの主題を幅広い技術で追求し、完成度の高い表現をする。	各自テーマを決め、フォルモ粘土で塑造し、乾燥後、緻密に彫刻し、彩色もする。	計画的に制作プロセスを考える。 完成度
	12				
三 学 期	1	鑑賞(デッサン)	素描表現の深さを知る。	教科書、素描集で鑑賞	素描表現に関心を持つ。
	2	絵画(点描デッサン)	技法を限定する中で、深い追究をする。	静物を観察し、ペンで点の集合で描く。	緻密に調子を観察する。 完成度
	3				

その他 (履修上の留意点・大学進学のための学習など)

作品課題は真剣に取り組み、参考作品や資料・道具などは大切に扱う。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
芸術科（書道Ⅰ）	2	第1学年・全類	選択必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	教育出版「書道Ⅰ」		

科目の到達目標
漢字・仮名は古典の臨書を通して、漢字仮名交じりの書については相互の調和と想像力、線質の表し方を追求する。
また、実用書や硬筆など、書道の幅広い活動を通して書を愛好する心情を育てるとともに感性を豊かにし、書写能力を表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばすことを目的とする。

評価の観点と方法について
- 書を愛好し、書写能力を高め、意欲的に表現や鑑賞の活動を行う。 - 感性を豊かにし、書の美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫する。 - 自己を主体的に表現するために、基礎的な技能を身につけている。 - 書の効用や表現を幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わう。
○「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点から評価する。

	月	学習単元・教材	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	書の美 用具用材、姿勢、 執筆、基本用筆	興味関心を持ち、用と美の 一体を感じ取らせる	書写と書道の関係を理解する 文房四宝の知識技能を理解する 筆毛の性能と、姿勢・執筆に慣れる	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に取り組む 態度」の3つの観点 から評価する。
		漢字の書 「初唐の楷書」	楷書四種の用筆、運筆法 の理解（三折構造）	完成された楷書古典に触れ、特徴や 技法を知る	
	5	漢字の書 「初唐の楷書」	用筆の理解と技法習得	古典の起筆、送筆、収筆の見極めと	
		漢字仮名交じりの書 「要素」	意図に応じた表現の工夫 三要素の理解	文字の大小、墨の潤渴、線の太細な ど豊かで多様な表現を味わう	
	6	漢字仮名交じりの書 「構成」	特徴と収め方の理解 三構成の理解	行書き、グループ書き、散らし書き の基本を知る	
		確認テスト形式 漢字の書	古典の特徴を見極める	三折構造に留意すること	
	7	漢字仮名交じりの書	基本的な作品制作に自らの 意図を組み込む	要素・構成を組合せ、落款にも配慮	

	月	学習単元・教材	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	一学期の見直しから 漢字の書 漢字仮名交じりの書	用筆、結構の習得 意図を明確にする	教科書掲載作品から題材を考え、 書の美を追求する	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に取り組む 態度」の3つの観点 から評価する。
	10	漢字の書（行書） 「王羲之」等 漢字の書（行書） 「空海」等	用筆、運筆から抑揚を知る 書家其々のリズムの違い を知る	王羲之らは歴史的、書的に話題が 豊富であることを理解する 文字の大小、行の流れ、墨の変化、 粗密を理解する	
	11	確認テスト形式 漢字の書 漢字仮名交じりの書	意図に基づく表現の向上 学習で得た技術を駆使し た表現意欲の具現化	運筆のリズム、墨の濃淡、筆圧、構 成など幅広い表現を探る	
	12	仮名の書（基本） 「いろは歌」から 漢字の書（細楷）	筆の持ち方と用筆の習得 多字数の行間、字間、空間 に注意をはらう	仮名の美の要素として連綿を理解 し、技法を身につける 基本用筆、腕法、線質を確認する	
三 学 期	1	仮名の書 「高野切第三種」	紙面構成の理解	古典を臨書し線質や書風を理解し、 更に先人の書する感覚を感じとる。	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に取り組む 態度」の3つの観点 から評価する。
	2	仮名の書 「蓬莱切」 確認テスト形式 漢字仮名交じりの書	要素と構成の理解 自分なりの表現意図を生 かした創意	仮名の書の美しさを知り、加えて 流れや墨つぎ行間の美をも考える。 1年間の書道の学習を総括して、ま とめの作品を作成し、充実感と達成 感を味わう	
	3	漢字の書 仮名の書			

その他（履修上の留意点）

作品の技術的な到達度の評価とともに、各自の技術習得への真剣さや努力の度合い、用具用材の取り扱いや後片付けへの心配りなども評価に取り入れる。

進度により内容を変更する場合があります。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
芸術科（書道Ⅱ）	2	第2学年1類A型・3類	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	教育出版「書道Ⅱ」	奈良県高等学校書道教育研究会「高等書範」	

科目の到達目標
漢字、仮名は、古典に基づく表現形式と工夫を養い、漢字仮名交じりの書については、名筆に基づく個性的な表現と工夫を迫及し、書道の創造的な活動を通して、書を楽しむ心と感性を育てるとともに個性豊かな表現と鑑賞力を伸ばすことを目的とする。

評価の観点と方法について
・ 書を愛好し、書写能力を高め、意欲的に表現や鑑賞の活動を行う。 ・ 感性を豊かにし、書の美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫する。 ・ 自己を主体的に表現するために、基礎的な技能を身につけている。 ・ 書の効用や表現を幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わう。
○ 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点から評価する。

	月	学習単元・教材	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	隸書による学習 「曹全碑」	基本的用筆の理解と表現の多様性	種々の古典について表現の多様性を理解する 用筆、運筆、字形について理解する 半紙を横長に4文字書	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に取り組む態度」の3つの観点から評価する。
	5	隸書による学習 「乙瑛碑」 仮名の書 「高野切第一種」	曹全碑との比較から整齊さや筆法、結構の違いを知る 連綿の特徴や技法の習熟 更にきめ細かな鑑賞と分析から美しさを知る	半紙を縦長に6文字書 古筆の中に用いられる代表的な連綿の技法を理解する	
	6	高等書範（1号） 漢字の書 仮名の書 漢字仮名交じりの書	自分なりの表現意図を生かした創意	3分野のうちから2つを選択する 半紙四文字の適当な整え方の理解 書の特徴を意識し技法を習得する 篆書・隸書と仮名の融合をはかる	
	7	天高祭展示 自由作品制作	幅広い書の創造をし、学園祭で展示する	図書室の利用など、幅広い題材を探り楽しく制作する	

	月	学習単元・教材	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	高等書範（昇級） 漢字の書 漢字仮名交じりの書 仮名の書	自分なりの表現意図を生かした総意	教科書に掲載されている作品すべてを鑑賞し、書風を選択する 多様な作品例により比較鑑賞しながら作品制作する	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に取り組む態度」の3つの観点から評価する。
	10	漢字の書（創作） 仮名の書（創作） 漢字仮名交じりの書	自分なりの表現意図を生かした創意 古典の匂いが残る書を目標とする	漢字や仮名で学んだ様々な筆法を基に、意図・イメージを高め、幅広く表現する	
	11	高等書範（2号） 漢字の書 仮名の書 漢字仮名交じりの書	自分なりの表現意図を生かした創意	3分野のうちから1つを選択する 文字の大小、墨の潤渴、線の太細など豊かで多様な表現を味わう 散らし書きの形式を研究し構成する 運筆のリズム、墨の濃淡、筆圧、構成など幅広い表現を探る	
	12	漢字の書（細楷） 「墓誌銘」	きめ細かな鑑賞と分析、更に伸びやかな線質を目指す	正しい姿勢、基本用筆、腕法を確認する	
三 学 期	1	仮名の書 「関戸本古今集」	きめ細かな鑑賞と分析、更に伸びやかで特有の美しさを知る	正しい姿勢、基本用筆とリズムに注意する	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に取り組む態度」の3つの観点から評価する。
	2	高等書範（3号） 漢字の書 仮名の書 漢字仮名交じりの書	自分なりの表現意図が生かせるよう創意工夫し、2年間の集大成とする	3分野のうちから1つを選択する 初めて経験する色紙や画仙紙に表現することで、異なる感覚を発見する 筆圧の強弱・変化、運筆の遅速・緩急など種々の観点から研究する	
	3	漢字仮名交じりの書 「自作」		2年間の書道の学習を総括して、まとめの作品を作成し、充実感と達成感を味わう	

その他（履修上の留意点）

作品の技術的な到達度の評価とともに、各自の技術習得への真剣さや努力の度合い、用具用材の取り扱いや後片付けへの心配りなども評価に取り入れる。

進度により授業内容を変更する場合があります。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
吹奏楽	4	1年生3類 特講	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****			音楽ノート、他

科目の到達目標
表現（歌唱・器楽）と理論という、器楽の追究活動を行うことにより、奏者としての力量を伸ばし、個性と創造性を高め、一手一つの精神を身に付ける。

評価の観点と方法について
各学期末の実技テストと筆記テストと平常点（取り組みの積極性等）を「関心・意欲・態度」「芸術的感受や工夫」「表現技能」「鑑賞能力」の4つの観点から総合的に評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	-実技ⅠA-1- ア) スケール イ) エチュード	各自の基礎を確認し、より安定した個人技術の習得に励む	【独奏訓練】（1-初級） スケール・エチュード・独奏の各教則本を使用して個人技の向上を図る。	積極的に個人技術向上への挑戦をおこなっているか。
	5				
	6	-理論ソルフェージュⅠ-1- ア) 楽典 イ) コールユーブンゲン ウ) 聴音・合唱	音楽演奏の基本である理論やソルフェージュを充実させ、合唱曲にも挑戦する。	【楽典・コールユーブンゲン・聴音】（1-初級） 音楽の論理的な解釈法。肉体による表現。音符の聴力、表現力の強化。	初級の聴音・新曲視唱・コールユーブンゲンそして、楽典を正確に演奏することができるか。
	7	【一学期実技テスト】			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	-実技ⅠA-2- ア) スケール イ) エチュード ウ) ソロ	一学期の各自の基礎を確認し、より安定した個人技術の習得に励む	【独奏訓練】(1-中級)	積極的に中級の個人技術向上への挑戦をおこなっているか。
	10				
	11	-理論ソルフェージュⅠ-2- ア) 楽典 イ) コールユーブンゲン ウ) 聴音・合唱	一学期に学んだ理論やソルフェージュをより充実させ、合唱曲にも挑戦する。		
	12	【二学期実技テスト】			
三 学 期	1	-実技ⅠA-3- ●まとめ	ソロのまとめの曲を仕上げる。	【年間計画第三段階】 (1-上級) 年間のまとめ	積極的に上級の個人技術向上への挑戦をおこなっているか。
	2	-理論ソルフェージュ ●まとめ	理論・ソルフェージュの上級を実習する。		
	3	-鑑賞- 【三学期実技テスト】	プロの演奏家やコンクール等の映像を鑑賞し、レポートを書く。		
				【成果発表会】	より高度な演奏を聴き、分析評価できるか。また自分の課題を明確化できるか。

その他（履修上の留意点・大学進学のための学習など）
ノートは五線と罫線の入った指定のものを使用のこと。
配られたプリントはなくさないように保管すること。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
吹奏楽	4	2年生3類 特講	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****			音楽ノート、他

科目の到達目標
表現（歌唱・器楽）と理論という、器楽の追究活動を行うことにより、奏者としての力量を伸ばし、個性と創造性を高め、一手一つの精神を身に付ける。

評価の観点と方法について
各学期末の実技テストと筆記テストと平常点（取り組みの積極性等）を「関心・意欲・態度」「芸術的感受や工夫」「表現技能」「鑑賞能力」の4つの観点から総合的に評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	-実技ⅡA-1- ア) スケール イ) エチュード	各自の基礎を確認し、より安定した個人技術の習得に励む	【独奏訓練】（2-初級） スケール・エチュード・独奏の各教則本を使用して個人技の向上を図る。	1年次に習得した基礎を生かし、積極的に個人技術向上への挑戦をおこなっているか。
	5				
	6	-理論ソルフェージュⅡ-1- ア) 楽典 イ) コールユーブンゲン ウ) 聴音・合唱	音楽演奏の基本である理論やソルフェージュを充実させ、合唱曲にも挑戦する。	【楽典・コールユーブンゲン・聴音】（2-初級） 音楽の論理的な解釈法。肉体による表現。音符の聴力、表現力の強化。	1年次に習得した基礎を生かし、二年初級の聴音・新曲視唱・コールユーブンゲンそして、楽典を正確に演奏することができるか。
	7	【一学期実技テスト】			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	-実技ⅡA-2- ア) スケール イ) エチュード ウ) ソロ	一学期の各自の基礎を確認し、より安定した個人技術の習得に励む	【独奏訓練】(2-中級)	積極的に中級の個人技術向上への挑戦をおこなっているか。
	10				
	11	-理論ソルフェージュⅡ-2- ア) 楽典 イ) コールユーブンゲン ウ) 聴音・合唱	一学期に学んだ理論やソルフェージュをより充実させ、合唱曲にも挑戦する。	【楽典・コールユーブンゲン・聴音】(2-中級)	中級の聴音・新曲視唱・コールユーブンゲンそして、楽典を正確に演奏することができるか。
	12	【二学期実技テスト】			
三 学 期	1	-実技ⅡA-3- ●まとめ	ソロのまとめの曲を仕上げる。	【年間計画第三段階】(2-上級) 年間のまとめ	積極的に上級の個人技術向上への挑戦をおこなっているか。
	2	-理論ソルフェージュ ●まとめ	理論・ソルフェージュの上級を実習する。		上級の聴音・新曲視唱・コールユーブンゲンそして、楽典を正確に演奏することができるか。
	3	-鑑賞- 【三学期実技テスト】	プロの演奏家やコンクール等の映像を鑑賞し、レポートを書く。	【成果発表会】	より高度な演奏を聴き、分析評価できるか。また自分の課題を明確化できるか。

その他（履修上の留意点・大学進学のための学習など）
ノートは五線と罫線の入った指定のものを使用のこと。
配られたプリントはなくさないように保管すること。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
吹奏楽	4	3年生3類 特講	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****			音楽ノート、他

科目の到達目標
表現（歌唱・器楽）と理論という、器楽の追究活動を行うことにより、奏者としての力量を伸ばし、個性と創造性を高め、一手一つの精神を身に付ける。

評価の観点と方法について
各学期末の実技テストと筆記テストと平常点（取り組みの積極性等）を「関心・意欲・態度」「芸術的感受や工夫」「表現技能」「鑑賞能力」の4つの観点から総合的に評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	-実技ⅢA-1- ア) スケール イ) エチュード ウ) ソロ	各自の基礎を確認し、より安定した個人技術の習得に励む	【独奏訓練】（3-初級） スケール・エチュード・独奏の各教則本を使用して個人技の向上を図る。	1, 2年次に習得した基礎を生かし、積極的に個人技術向上への挑戦をおこなっているか。
	5				
	6	-理論ソルフェージュⅢ-1- ア) 楽典 イ) コールユーブンゲン ウ) 聴音・合唱	音楽演奏の基本である理論やソルフェージュを充実させ、合唱曲にも挑戦する。	【楽典・コールユーブンゲン・聴音】（3-初級） 音楽の論理的な解釈法。肉体による表現。音符の聴力、表現力の強化。	1, 2年次に習得した基礎を生かし、三年初級の聴音・新曲視唱・コールユーブンゲンそして、楽典を正確に演奏することができるか。
	7	【一学期実技テスト】			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	-実技ⅢA-2- ア) スケール イ) エチュード ウ) ソロ	一学期の各自の基礎を確認し、より安定した個人技術の習得に励む	【独奏訓練】(3-中級)	積極的に中級の個人技術向上への挑戦をおこなっているか。
	10				
	11	-理論ソルフェージュⅢ-2- ア) 楽典 イ) コールユーブンゲン ウ) 聴音・合唱	一学期に学んだ理論やソルフェージュをより充実させ、合唱曲にも挑戦する。	【楽典・コールユーブンゲン・聴音】(3-中級)	中級の聴音・新曲視唱・コールユーブンゲンそして、楽典を正確に演奏することができるか。
	12	【レポート提出】 【二学期実技テスト】			
三 学 期	1	-実技ⅢA-3- ●まとめ	ソロのまとめの曲を仕上げる。	【年間計画第三段階】(3-上級) 年間のまとめ	積極的に上級の個人技術向上への挑戦をおこなっているか。
	2	-理論ソルフェージュ ●まとめ	理論・ソルフェージュの上級を実習する。		上級の聴音・新曲視唱・コールユーブンゲンそして、楽典を正確に演奏することができるか。
	3	-鑑賞- 【三学期実技テスト】	プロの演奏家やコンクール等の映像を鑑賞し、レポートを書く。	【成果発表会】	より高度な演奏を聴き、分析評価できるか。また自分の課題を明確化できるか。

その他（履修上の留意点・大学進学のための学習など）
ノートは五線と罫線の入った指定のものを使用のこと。
配られたプリントはなくさないように保管すること。